

帝塚山大学 大学院 学生募集要項

2023年
4月入学

人文科学研究科

日本伝統文化専攻

博士前期課程

博士後期課程

心理科学研究科

心理科学専攻 (心理学専修・臨床心理学専修)

博士前期課程

博士後期課程

個人情報の取り扱いについて

帝塚山大学では、受験生本人から取得した情報につきましては、入試結果の通知ならびに入試に関するお知らせ・問い合わせに使用し、法令に定める以外で第三者に提供いたしません。

目 次

■帝塚山大学の沿革	2
■2023年度 募集研究科・専攻および人員	3
■2023年度 入学選考日程・合格発表日	3
■出願書類	4
■学費（2022年度実績）	6
■入学辞退に伴う学費返還について	7
■奨学金制度について	7
■合格発表について	7
■入試成績の開示について	8
■問い合わせ先	8
■人文科学研究科日本伝統文化専攻	9
①概要	12
②博士前期課程学生募集要項	19
③博士後期課程学生募集要項	22
■心理科学研究科心理学専攻	25
①概要	28
②博士前期課程学生募集要項	35
③博士後期課程学生募集要項	38
■綴じ込み書類 ※書類はいずれも両研究科・全専攻共通です。	
①願書（A）・入学検定料振込依頼票（B）・入学検定料領収書（C）	
②受験票・副票	
③健康診断書（大学院、大学に在学中の者は、大学発行のものでも提出可）	
④留学生学費減免願書（外国人留学生のみ提出）	
⑤出願用封筒	
■オープンキャンパス	
■京阪神交通路線マップ	

帝塚山大学の沿革

- 1964年（昭和39年）教養学部／教養学科設置
- 1982年（昭和57年）帝塚山考古学研究所設置（1997年より帝塚山大学考古学研究所）
- 1987年（昭和62年）経済学部／経済学科設置
- 1991年（平成3年）大学院 経済学研究科（修士課程）設置
- 1992年（平成4年）帝塚山大学経済経営研究所設置
帝塚山学園芸術文化研究所設置
（2000年より帝塚山大学芸術文化研究所）
（2006年より帝塚山大学奈良学総合文化研究所）
帝塚山学園人間環境科学研究所設置
（2000年より帝塚山大学人間環境科学研究所）
- 1993年（平成5年）経済学部／経営情報学科設置
大学院 経済学研究科（博士後期課程）設置
- 1996年（平成8年）大学院 人文科学研究科（修士課程）設置
- 1997年（平成9年）法政策学部／法政策学科設置
- 1998年（平成10年）経営情報学部／経営情報学科設置
大学院 人文科学研究科（博士後期課程）設置
- 1999年（平成11年）教養学部を人文科学部に改組し、
人文科学部／日本文化学科・英語文化学科・人間文化学科設置
- 2001年（平成13年）大学院 法政策研究科（修士課程）設置
- 2003年（平成15年）大学院 法政策研究科（博士後期課程）設置
- 2004年（平成16年）人文科学部／人間文化学科および短期大学部を改組し、
心理福祉学部／心理学科・地域福祉学科設置
現代生活学部／食物栄養学科・居住空間デザイン学科設置
帝塚山大学附属博物館設置
- 2005年（平成17年）帝塚山大学心のケアセンター設置
- 2006年（平成18年）法政策学部／ビジネス法学科・公共政策学科設置
現代生活学部／食物栄養学科に管理栄養士養成課程 設置
大学院 人文科学研究科臨床社会心理学専攻（修士課程）設置
- 2009年（平成21年）現代生活学部／こども学科設置
人文科学部／日本文化学科・英語文化学科を改組し、
人文学部／日本文化学科・英語コミュニケーション学科設置
- 2010年（平成22年）法政策学部／ビジネス法学科・公共政策学科を改組し、
法学部／法学科設置
- 2011年（平成23年）心理福祉学部／心理学科・地域福祉学科を改組し、
心理学部／心理学科設置
- 2012年（平成24年）大学院 人文科学研究科臨床社会心理学専攻（修士課程）を改組し、
心理科学研究科心理科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）設置
経営情報学部／経営情報学科を改組し、
経営学部／経営学科設置
- 2014年（平成26年）人文学部／日本文化学科・英語コミュニケーション学科を改組し、
文学部／日本文化学科・文化創造学科設置
- 2018年（平成30年）経済学部／経済学科および経営学部／経営学科を改組し、
経済経営学部／経済経営学科設置
- 2019年（平成31年）現代生活学部／こども学科を改組し、
教育学部／こども教育学科設置

■2023年度募集研究科・専攻および人員

I. 博士前期課程

研究科	専攻(専修)	修業年限	入学定員	募集人員	
				秋季募集	春季募集
人文科学	日本伝統文化	2年	8名	4名程度	4名程度
心理科学	心理科学(心理学)	2年	5名	3名程度	2名程度
	心理科学(臨床心理学)	2年	15名	9名程度	6名程度

II. 博士後期課程

研究科	専攻	修業年限	入学定員 (募集人員)
人文科学	日本伝統文化	3年	2名
心理科学	心理科学	3年	3名

■2023年度入学選考日程・合格発表日

I. 博士前期課程

研究科	専攻(専修)	選考日		合格発表日	
		秋季募集	春季募集	秋季募集	春季募集
人文科学	日本伝統文化	2022年 9月13日(火)	2023年 2月8日(水)	2022年 9月20日(火)	2023年 2月15日(水)
心理科学	心理科学(心理学)				
		心理科学(臨床心理学)			

II. 博士後期課程

研究科	専攻	選考日	合格発表日
人文科学	日本伝統文化	2023年2月8日(水)	2023年2月15日(水)
心理科学	心理科学		

【注意】新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、様々な変更が生じる可能性があります。その場合は、本学ウェブサイト等で周知しますので、確認してください。

■出願書類 両研究科・全専攻・博士前期課程・博士後期課程共通

出願者は、次の①～⑩（⑨及び⑩は外国人留学生のみ）の書類をすべて取り揃え、綴じ込みの封筒を使用し、簡易書留速達郵便にて郵送してください。（締め切り日の消印有効）

書類に不備がある場合は出願を受理しないことがありますので、よく確認したうえで封入してください。

【出願書類】

書類		作成・記入・提出上の注意事項
①	入学願書（紫色） （綴じ込みの用紙）	「願書（A）・入学検定料振込依頼票（B）・入学検定料領収書（C）」は、切り離さずに銀行窓口へ提出し、銀行収納印を3ヶ所〔(A)・(B)・(C)〕に押印してもらい、本学へ「願書（A）」のみを提出してください。裏面にも漏れなく記入し、署名・押印してください。〔「入学検定料領収書（C）」は各自で保管してください。〕
②	受験票・副票 （綴じ込みの用紙）	「副票」に写真を貼付してください。「受験票・副票」は切り離さずに提出してください。 「受験票」は、本学で出願書類を確認し、受付印を押して受験番号を記入した後、本学の封筒に入れて受験生宛に郵送します。
③	【博士前期課程】 最終出身大学の 卒業（見込み）証明書 【博士後期課程】 最終出身大学院の 修了（見込み）証明書	【博士前期課程】 卒業した（卒業見込みである）ことと、成績とを1枚の書類で証明できるものがある場合は、その書類を1通提出してください。 （例：「成績・卒業（見込）証明書」） 【博士後期課程】 修了した（修了見込みである）ことと、成績とを1枚の書類で証明できるものがある場合は、その書類を1通提出してください。 （例：「成績・修了（見込）証明書」）
④	【博士前期課程】 最終出身大学の 成績証明書 【博士後期課程】 最終出身大学院の 成績証明書	
⑤	写真2葉	出願3ヶ月以内に撮影した縦4cm×横3cmの上半身・無帽・無背景のものを「願書（A）」および「副票」に貼付してください。 ※写真の裏面に氏名を記入してください。
⑥	健康診断書 （綴じ込みの用紙）	出願3ヶ月以内に医師が作成し厳封したもの。綴じ込みの用紙を使用してください。 ※出身（在学）大学の健康診断の際に受診し、大学が作成した健康診断書であれば、出願3ヶ月以内でなくても、同じ年度内であれば提出可。

書類		作成・記入・提出上の注意事項
⑦	研究計画書	博士前期課程 【人文科学研究科】 2000字程度。A4判の用紙にワープロ等で印字したもので、日本語による。 【心理科学研究科】 2000字程度。A4判の用紙にパソコンで作成したもので、日本語による。1ページ目に志望する専修、研究テーマ、氏名を明記し、1行空けて本文を記述すること。
		博士後期課程 【人文科学研究科】 4000字程度。A4判の用紙にワープロ等で印字したもので、日本語による。 【心理科学研究科】 A4判の用紙5枚（1枚40字×30行）の1ページ目にタイトル（仮題でもよい。必要ならサブタイトルも）と出身大学院・研究科・専攻名と氏名、1行空けて要約を40字×10行程度で示す。1行空けて目的（または問題提起）・方法・仮説・参考文献等を記述する。全てパソコンで作成すること。
⑧	卒業論文の概要 （該当者のみ提出）	【人文科学研究科】 人文系の学部を卒業し、「卒業論文」を作成した者は、その概要2000字程度（A4判の用紙にパソコンで作成したもので、日本語による）を提出。 【心理科学研究科】 心理学系の学科・専攻を卒業し、「卒業論文」を作成した者は、その概要1200字程度（A4判の用紙にパソコンで作成したもので、日本語による）を提出。1ページ目に卒業論文題目、出身大学・学部・学科・専攻・氏名を明記し、1行空けて本文を記述すること。 在学生で「卒業論文」が未完成のため卒業論文の概要を提出できない場合は、これから作成しようとする卒業論文の内容・計画について1200字程度の概要を提出すること。（心理学系でない学科・専攻の卒業（見込み）者は、提出不要。）
	博士後期課程 修士学位請求論文またはそれに代わる論文の写し	修士論文または学会誌に掲載された査読付学術論文 ※本学博士前期課程修了（修了見込み）者は提出の必要はありません。

【外国人留学生】

書類	作成・記入・提出上の注意事項
⑨ 在留資格を証明できる書類	次の書類をA4判用紙にコピーして提出してください。 i パスポート（顔写真が掲載されているページ） ii パスポート（有効なビザが貼付されているページ。在留カードで確認できる場合は不要） iii 在留カード（表・裏の両面）
⑩ 留学生学費減免願書（綴じ込みの用紙）	入学後に「留学」の在留資格を有する者。 「保護者又は保証人」についても漏れなく記入してください。また、「理由」はできるだけ詳しく記入してください。 ※在留資格が「留学」でない者は、減免できません。

【その他】 該当者は出願時に提出してください。

【博士前期課程】 他の大学院を修了した者または在学中の者	当該大学院の学業成績証明書
婚姻等による改姓の場合	婚姻その他の理由により改姓したため、成績証明書等に記載されている姓と現在の姓とが異なる場合は、本人の戸籍抄本を提出してください。

■学費（2022年度実績）

両研究科・全専攻・博士前期課程・博士後期課程共通

前期	入学金（初年度のみ）	200,000円
	授業料	325,000円
	合計	525,000円
後期	授業料	325,000円
	合計	325,000円

- (注)
- 学費は、在学中に物価上昇等に伴い増額されることがあります。
 - 博士前期課程入学者で本学卒業生の入学金は100,000円とします。
 - 博士後期課程入学者で本学博士前期課程修了者の入学金は免除します。
 - 心理科学研究科心理科学専攻では、実験調査実習費が必要になります。博士前期課程の心理学専修は150,000円、臨床心理学専修は200,000円、博士後期課程は150,000円を毎年別途申し受けます。
また、臨床心理学専修で公認心理師受験資格の取得希望者には、実習科目履修費（2年次）として30,000円を別途申し受けます。
 - 休学する場合1年間100,000円、半年間50,000円を申し受けます。
 - 後期分学費納付時に、冷暖房費（年間2,000円）を別途申し受けます。

■入学辞退に伴う学費返還について

入学手続き完了後、やむを得ない事情により本学への入学を辞退する場合は、本学所定用紙に必要事項を記入のうえ、2023年3月31日（金）17:00までに総務課入学手続係に申し出れば既納の「学費等納付金」のうち入学金以外を返還します。返還は4月末日までに行います。詳しくは担当者にお問い合わせください。

（郵送先） 〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1
帝塚山大学 総務課入学手続係
TEL 0742-48-9122

※2023年3月31日（金）17:00必着

■奨学金制度について

学力優秀な学生に対して、研究助成的意味をもつ経済的援助として、日本学生支援機構のほかに、本学園独自の奨学金制度があります。経済的援助を必要とする者に対して、一定の要件の下で各研究科に、博士前期課程については各年度新入生1名に年40万円を支給します。博士後期課程については各年度新入生1名に年50万円を支給し、この他に人文科学研究科1名、心理科学研究科2名に年30万円を支給します。

また、経済的理由により修学が困難で、有効な「留学」の在留資格を有する私費外国人留学生は、出願時に「留学生学費減免願書」を提出することにより授業料から105,000円を減免する制度があります。

■合格発表について

合否結果は、受験生全員に郵送で通知します。

また、帝塚山大学のホームページ（<https://www.tezukayama-u.ac.jp/>）の「重要なお知らせ」でもお知らせします。（合格発表日午前10時）

■入試成績の開示について

合格発表後、受験生から成績開示の請求依頼があった場合、次の方法により、筆記試験および面接試験（口頭試問）の成績を開示します。

（1）手続方法

- ① 入学手続き期間最終日の5日前までに必着で研究科・専攻名、受験番号、氏名、住所、電話番号を明記のうえ、封書で各研究科・専攻の教学支援課（問い合わせ先参照）に請求をしてください。なお、封筒には『入試成績開示請求』と朱書きしてください。
- ② 入試係から、「入試成績開示請求書」を送付します。
- ③ 「入試成績開示請求書」に必要事項を記入し、手数料（800円分の郵便小為替）および本人確認書類（受験票の写し）を同封のうえ各研究科・専攻の事務室に返送してください。転居などで現住所が出願時の住所と異なる場合は、住民票の写しも併せて送付してください。
- ④ 請求書記載の住所宛に「親展」で郵送します。窓口での開示は行いません。郵送のみの取り扱いとします。

（2）受付期間

上記③の「入試成績開示請求書」の提出は、合格発表の翌日から、入学手続き期間最終日（消印有効）まで。

■問い合わせ先

- | | |
|----------|--------------------------------|
| ○人文科学研究科 | （住所）〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1 |
| 日本伝統文化専攻 | （電話）0742-48-8150 [教学支援課（文学部）] |
| ○心理科学研究科 | （住所）〒631-8585 奈良市学園南三丁目1-3 |
| 心理科学専攻 | （電話）0742-41-4720 [教学支援課（心理学部）] |
| ○大学院入試係 | （住所）〒631-8585 奈良市学園南三丁目1-3 |
| （両研究科共通） | （電話）0742-48-9122（総務課） |

人文科学研究科 日本伝統文化専攻

博士前期課程

博士後期課程

人材養成目的

(「帝塚山大学大学院学則」第5条)

人文科学研究科日本伝統文化専攻博士前期課程は、日本伝統文化を総合的かつ体系的に究明し、有形文化や無形文化の探究を通して、研究能力を有する高度な専門職業人を養成することを目的とする。

人文科学研究科日本伝統文化専攻博士後期課程は、日本伝統文化を総合的かつ体系的に究明し、有形文化や無形文化の更なる探究を通して、高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する、より高度な専門職業人の養成や学際的視野に立つ研究者を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

人文科学研究科日本伝統文化専攻では、本学の教育理念および本専攻の人材養成目的に基づき、本専攻の課程を修め、所定の期間在学し、博士前期課程では30単位、博士後期課程では4単位の修得と必修などの条件を満たすとともに、演習担当教員の指導のもと、日本伝統文化に関する諸学〔民俗学、考古学（歴史考古学及び寺院史）、美術史学、文献史学（古代史・中世史及び日本文化史）、古典文学〕を総合的・体系的に究明し、博士前期課程では修士論文、博士後期課程では博士論文の審査及び最終試験に合格し、以下の、独創的かつ先進的な成果をあげ、知識・能力・資質等を身につけた者に修了を認定し、学位を授与する。そのために、本研究科のアセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）を策定する。

博士前期課程

1. 【専門的知識と研究成果】演習担当教員の指導のもと、条件を満たす学術論文等の形式で、日本伝統文化の諸学に関する、独創的かつ先進的な成果を発表している。
2. 【専門的知識や技能の活用】変化する社会状況に応じて、日本伝統文化に関する高い見識や修得した高度な研究能力、表現・発信力を生かし、学際的視野に立って、社会や地域に関する諸問題について専門的な見解を持ち、他者に説得的に伝えることができる。
3. 【主体的な意識と態度】日本伝統文化を深く理解し、高度な専門職業人や学際的視野に立つ研究者として、自らの高い、長期的な目標をもち、その実現のために主体的に学ぶことができる。
4. 【多様なコミュニケーション】日本伝統文化に関する深い見識や学際的な知見に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々を相手の立場に立って深く理解し、配慮しながら、精確な表現力を用いて高度な、専門的協働をすることができる。
5. 【社会人としての自立】専門的職業人や学際的視野に立つ研究者を目指すのにふさわしい素養や倫理観、責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる実践力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

博士後期課程

1. 【専門的知識と研究成果】演習担当教員の指導のもと、条件を満たす学術論文等の形式で、日本伝統文化の諸学に関する、独創的かつ先進的な成果を発表している。
2. 【専門的知識や技能の活用】変化する社会状況に応じて、日本伝統文化に関するきわめて高い見識や修得した特に高度な研究能力、表現・発信力を生かし、学際的視野に立って、社会や地域に関する諸問題について専門的で、かつ、独創的な見解を持ち、他者に説得的に伝えることができる。
3. 【主体的な意識と態度】日本伝統文化を特に深く理解し、高度な専門職業人や学際的視野に立つ研究者として、自らの高く、緻密で、長期的な目標をもち、その実現のために主体的に、かつ、自立して学ぶことができる。
4. 【多様なコミュニケーション】日本伝統文化に関する特に深い見識や学際的な知見に基づき、文化・社会的背景の異なる多様な人々を相手の立場に立って、深く誠実に理解し、配慮しながら、精確で豊かな表現力を用いて高度な、専門的協働をすることができる。
5. 【社会人としての自立】専門的職業人や学際的視野に立つ研究者を目指すのにふさわしい素養や特に高潔な倫理観、責任感をもち、地域や社会の動向をふまえて現場で必要とされる優れた実践力を身につけ、社会の中核を担う存在として適切な行動ができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

博士前期課程

1. 総体として、個別もしくは少人数を対象とする専門的内容による、アクティブで、きめ細やかな教育を行い、学位論文作成に必要な能力や、表現・発信能力、主体的に学ぶ能力、専門的協働のための能力の養成をはかり、倫理観や責任感を涵養する。そのために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリングなどを活用し、カリキュラムの体系化を図る。
2. 基礎科目として、学際的視野を養うための「日本伝統文化特論」と奈良及び周辺地域の有形・無形文化財を対象とするフィールドワークとしての「奈良学特論」を置く。
3. 民俗学、考古学（歴史考古学）、美術史学、文献史学（古代史・中世史）、古典文学を専門分野として、

それぞれの体系性に基づき、必修科目や選択科目を設置する。

4. 各専門分野の研究指導科目として「演習」を置き（2年間の履修で8単位を認定する）、その担当教員が指導教員となり、学習や研究を指導する。
5. 関連講義科目として各分野の講義科目「特論」を置く。各科目をⅠ群（民俗学）、Ⅱ群（考古学）、Ⅲ群（美術史学）、Ⅳ群（文献史学）、Ⅴ群（古典文学）の5群に分類する。
6. 関連講義科目について、「演習」の領域と対応する群より4科目8単位以上の修得を課す。
7. 学外講師を招へいしての日本伝統文化に関する総合的もしくは専門的な教育を行う。
8. 学修成果については、アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）に基づき評価する。

博士後期課程

1. 総体として、個別もしくは少人数を対象とする、より高度な専門的内容による、アクティブで、きめ細やかな教育を行い、学位論文作成に必要な能力や、表現・発信能力、主体的に学ぶ能力、専門的協働のための能力の養成をはかり、倫理観や責任感を涵養する。そのために、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、ナンバリングなどを活用し、カリキュラムの体系化を図る。
2. 民俗学、考古学（寺院史）、美術史学、文献史学（日本文化史）、古典文学を専門分野としてそれぞれの体系性に基づき、必修科目や選択科目を設置する。
3. 各専門分野の研究指導科目の「特殊研究」を置き（3年間の履修で4単位を認定する）、その担当教員が指導教員となり、研究を指導する。
4. 関連講義科目として各分野の「特殊講義」を置く。「特殊講義」について、「特殊研究」の領域と対応する科目4単位の修得を課す。
5. 学外講師を招へいしての日本伝統文化に関する総合的もしくは専門的な教育を行う。
6. 学修成果については、アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）に基づき評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

人文科学研究科日本伝統文化専攻は、教育理念に掲げた人材を育成するために、以下のことを入学者に求める。

博士前期課程

1. 大学における民俗学、考古学（歴史考古学）、美術史学、文献史学（古代史・中世史）、古典文学を中心とする日本伝統文化に関する教育課程を幅広く修得し、あるいは、基礎的知識を持っている。
2. 多様な人々と協働で研究に取り組んだ経験を持ち、他者との対面状況で自分の意志を高度なレベルで伝えることができ、教員等との共同研究に参画できる協調性と積極性を有する。
3. 本課程が掲げる人材養成目的を理解している。
4. 民俗学、考古学（歴史考古学）、美術史学、文献史学（古代史・中世史）、古典文学に関わる専門職員や教育職員などの専門的職業人、あるいは学際的視野に立つ研究者を目指し、向学心・探究心を有している。
5. 文献を読解し分析するための基礎的学力を有し、基礎的な論文作成能力を有する。

このような入学者の選抜は、小論文などの筆記試験や研究内容・専門的知識を問う口頭試問を一般選考・社会人選考・留学生選考の各選考区分に応じて課し、志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価して実施する。

博士後期課程

1. 大学院博士前期課程における民俗学、考古学（歴史考古学）、美術史学、文献史学（古代史・中世史）、古典文学を中心とする日本伝統文化に関する教育課程を幅広く修得し、あるいは、十分な専門的知識を持っている。
2. 修士論文において高い専門性や独創性が認められる。
3. 多様な人々と協働で研究に取り組んだ経験を持ち、他者との対面状況で自分の見識や意志を高度なレベルで説得的に伝えることができ、教員等との共同研究に参画できる協調性と積極性を有する。
4. 本課程が掲げる人材養成目的を理解している。
5. 民俗学、考古学（寺院史）、美術史学、文献史学（日本文化史）、古典文学に関わる専門職員や教育職員などの専門的職業人、あるいは学際的視野に立つ研究者を目指し、資格の取得などの実績がある。
6. 研究遂行に不可欠な高度な文献読解・分析力を持ち、十分な論文作成能力を有する。

このような入学者の選抜は、小論文などの筆記試験や研究内容・専門的知識を問う口頭試問を一般選考・社会人選考・留学生選考の各選考区分に応じて課し、志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価して実施する。

※人材養成目的および3つのポリシーは、より深い理解につながるよう、内容や表現等について定期的な見直しを行っています。

①人文科学研究科（日本伝統文化専攻）の概要

〔研究科の構成と特色〕

帝塚山大学大学院人文科学研究科日本伝統文化専攻では、日本伝統文化を総合的かつ体系的に究明し、有形文化や無形文化の探究を通して、日本伝統文化に関する高度な専門職業人の養成や学際的視野に立つ研究者の育成を行うことを目的として「民俗学」、「考古学」、「美術史学」、「歴史学（古代史・中世史）」「古典文学」を中心とした5つの分野における深い研究を基礎に、相互の領域に有機的な関連をもたせながら総合的に研究・教育を行う。

本専攻には、博士前期課程（2年）と博士後期課程（3年）の二つの課程を置いている。前期課程修了時には「修士（文学）」の学位が授与されるが、本専攻では「高度な専門職業人」や「学際的視野に立つ研究者」を目指すには、前期課程修了ののち、さらに博士後期課程における修学と研究の蓄積を経て、最終的に「博士（文学）」の学位取得を目指すことを、重要な要件の一つと考えている。

コースワークの充実

本専攻では、前期課程において、「学際的視野の育成」を実質的に強化することを目的として、複数の科目等を通して体系的に履修するコースワークの充実を図っている。これは、基本的にシラバスで示された講義計画に沿って学修し、それぞれの科目が掲げる目標に到達するよう知識を蓄積し、あわせてその分野における研究法を身につけるものである。これにたいし、指導担当の助言・指導を受けながら、自らの研究テーマを追究していくのがリサーチワークで、研究指導科目に配当される「演習」がこれに当る。

前期課程の必修科目である「基礎科目」に配当される「日本伝統文化特論」と「奈良学特論」は、本専攻独自の特色ある科目で、このうち「日本伝統文化特論」は、各分野の担当教員が2～3コマずつ担当し、それぞれの分野における研究法、現在の研究動向、基本的文献の提示・読解等を行う。これによって、自らの研究分野以外の諸学にも触れながら、学際的視野を広げることが可能となる。

「奈良学特論」は、同じく各分野の教員が担当するフィールドワークを中心とした科目で、「奈良」に所在する有形・無形の文化財を「教材」として、各分野の調査・研究法の基礎を実践的に身につける科目で、コースワークと次に見るリサーチワーク科目との中間的な内容を持つ。いずれの科目も「高度な専門職業人（教育委員会等の文化財担当技師や博物館学芸員）」や「学際的視野に立つ研究者」には必須の知識・能力を養うユニークな科目であり、前期課程の1年次に履修することを原則としている。

前期課程のⅠ～Ⅴ群に配当された「民俗学特論」「考古学特論」「美術史特論」「日本史特論」「古典文学特論」は、コースワークの基盤となる科目で、基礎的知識の確認を中心に行われる。その他、Ⅰ～Ⅴ群に配当される科目は、各分野における各論的講義であり、研究の展開と深化に資する科目である。

セメスター制度

本専攻では、学修の進捗度や理解度を的確に把握するために、上記のコースワーク科目は、全てセメスター制度（前・後期制）を導入している。履修した科目は、講義・演習時や学期末において、学修の到達度をはかるためのレポート、口頭発表等の課題、試験によって総合的に判断され、一定レベルに到達していないと認められた場合には、再履修が求められる。

ティーチング・アシスタント制度

本専攻では、自らの研究を遂行するだけでなく、修得した知識や経験を後輩学生へ還元し、あわせて専門教育の方法等を学ぶために、主として専任教員が担当する講義・演習・実習科目において、ティーチング・アシスタントの制度を導入している。教育職員はいうまでもなく、博物館学芸員・研究員には、教育能力が必須であり、「教える」ということの基礎を学ぶために、全学生に積極的な制度の活用が促されている。なお、ティーチング・アシスタントには、規定により時間給が支給される。

計画的なリサーチワークの構築

一方で、「高度な専門職業人」「専門分野における研究者」を育成するためには、各専門分野における徹底的な研究指導を行う、継続的なリサーチワークが重要であることはいうまでもない。前期課程における

「演習」、後期課程における「特殊研究」は、リサーチワークの基幹科目で、修士論文、博士論文をはじめとする学術論文の指導・検証、各分野における研究法・調査法の指導はもとより、高次の研究に進捗できるよう徹底的な個人指導が行われる。

とくに後期課程は、高次の研究者養成を目指すため、精緻なリサーチワークを重視しているが、必要に応じて前期課程に配当される科目を履修することも可能となっている。

各課程のカリキュラムについては、科目表・シラバスを参照されたい。

リサーチ・アシスタント制度

本専攻の後期課程では、学生の調査・研究能力の向上と、諸研究の企画・実施を確実に遂行する能力を養成するため、専任教員ともに調査・研究を行い、あるいは専任教員が参画するプロジェクトの一員として参加するリサーチ・アシスタントの制度を導入している。リサーチ・アシスタントには、規定により所要の交通費や日当等が補助される場合がある。

大学院インターンシップ制度

後期課程の学生を対象とする制度で、博物館・研究所等において一定期間、学芸員・研究員のもとで実際にインターンとして、当該施設の業務に携わり、最先端の環境において、研究・教育の実際を修得するものである。施設は、本学と提携した主として奈良県内の国・公立の施設であり、希望者は審査ののち派遣される。

【インターンシップ派遣実績先】奈良県立民俗博物館

ポートフォリオによる研究進捗度の把握

本専攻では、全ての大学院生の調査・研究の進捗度を把握するため、学生個別にポートフォリオを作成している。学生は年度の初め（4月）に指導教員と相談の上「研究計画書」を提出し、年度末（3月）に「研究報告書」の提出が義務付けられる。また、在学中に履修した科目の成績、ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント、インターンシップ等の活動実績、学会・研究会・学内発表等で配布したレジュメ・資料、刊行物へ掲載された論文抜き摺り等はすべてこのポートフォリオに一元的に蓄積し、必要に応じて担当教員の所見や指導歴が加えられる。また、このポートフォリオの内容は随時、専任教員間で閲覧し、必要に応じ学際的視点での助言・指導が行われる。

このポートフォリオは、博士学位取得まで保管される。

〔奨学金〕

学力優秀な学生に対して、研究助成的意味をもつ経済的援助として、日本学生支援機構のほかに、本学園独自の奨学金制度がある。

また、私費外国人留学生には、学費減免制度がある。（入学後、この制度の適用を受けようとする者は、出願時に教学支援課（文学部）に問い合わせること）

〔留学生選考〕

本研究科においては、外国人留学生を対象に、一般受験生とは別に選考試験を実施する。ただし、外国人留学生に対しても一般学生と同様に、演習・講義は日本語で行うため、それを理解する日本語能力を必要とする。入学選考の合否判定においても日本語能力を考慮する。

〔社会人選考〕

博士前期課程・後期課程とも、本研究科が定める社会人選考の資格を満たす者については、一般受験生とは別に選考試験を実施する。（出願資格参照）

〔将来の進路〕

本研究科日本伝統文化専攻を修了した者は、国ならびに地方公共団体や法人設置の博物館・博物館相当施設・資料館・各種文化施設や大学、および研究機関などにおいて高度専門職業人、高度専門研究者とし

て、また、教育機関においても日本伝統文化に関する教育研究者として活躍することが期待される。

〈過去の主な就職実績〉

国立慶州文化財研究所（韓国）▽和歌山県立博物館▽城陽市歴史民俗資料館▽愛荘町立歴史文化博物館
▽京都市文化市民局（文化財保護課）▽城陽市教育委員会（学芸員）▽八尾市教育委員会（学芸員）
▽香芝市教育委員会（学芸員）▽島本町教育委員会（学芸員）▽草津市教育委員会（学芸員）
▽十津川村役場（学芸員）▽彦根市歴史まちづくり部（学芸員）▽堺市文化観光局（学芸員）
▽和歌山県教育委員会（中学校教諭）▽武蔵野美術大学教授▽奈良大学准教授▽帝塚山大学教授など

〔資格〕

- ・学芸員資格
- ・中学校教諭専修免許状（社会）
- ・高等学校教諭専修免許状（地理歴史）

（注）原則として、中学校1種普通免許状（社会）及び高等学校1種普通免許状（地理歴史）を有していること。ただし、大学院の研究に支障のない場合等、一定の条件のもとで、1種普通免許状取得に必要な科目を履修することができる。

〔入試状況〕

博士前期課程

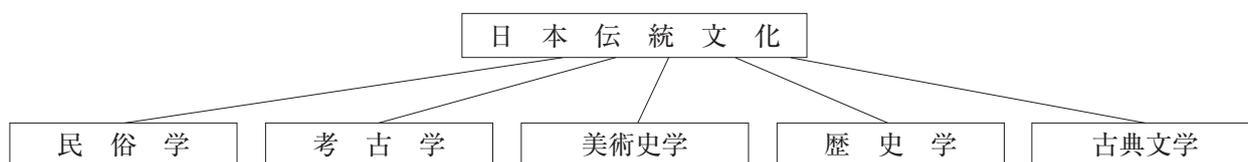
	2020年度			2021年度			2022年度		
	秋季	春季	計	秋季	春季	計	秋季	春季	計
志願者	4	3	7	1	1	2	2	4	6
受験者	4	3	7	1	1	2	2	4	6
合格者	3	2	5	0	0	0	2	4	6
入学者	3	2	5	0	0	0	2	4	6

博士後期課程

	2020年度	2021年度	2022年度
志願者	0	0	5
受験者	0	0	5
合格者	0	0	4
入学者	0	0	4

日本伝統文化専攻博士課程 の研究体系及び科目構成

1. 日本伝統文化の研究体系



2. 研究分野と授業科目構成

・日本伝統文化専攻博士前期課程（入学定員8名）

修士論文指導						
有形・無形文化の 研究領域の拡大・深化	分野 科目	民俗学	考古学	美術史学	歴史学	古典文学
	科目 基礎	日本伝統文化特論		奈良学特論		
	科目 研究指導	民俗学演習	考古学演習	美術史演習	日本史演習	古典文学演習
	科目 関連講義	民俗学特論 A/B 民俗学特論 C/D 民俗学特論 E/F	考古学特論 A/B 考古学特論 C/D 考古学特論 E/F	美術史特論 A/B 美術史特論 C/D 美術史特論 E/F	日本史特論 A/B (古代) 日本史特論 C/D (中世) 日本史特論 E/F	古典文学特論 A/B 古典文学特論 C/D 古典演劇特論 A/B 古典演劇特論 C/D

※2023年度開講予定科目（変更する場合があります）

・日本伝統文化専攻博士後期課程（入学定員2名）

博士論文指導														
研究の体系化・発展・確立	分野 科目	日本伝統文化												
	科目 研究指導	民俗学 寺院美術	学 史	特 特	殊 殊	研 研	究 究	日 古	本 典	文 学	史 特	殊 殊	研 研	究 究
	科目 関連講義	民俗学 寺院美術	学 史	特 特	殊 殊	講 講	義 義	日 古	本 典	文 学	史 特	殊 殊	講 講	義 義

※2023年度開講予定科目（変更する場合があります）

博士学位請求論文（博士論文）作成へのロードマップ

博士後期課程の大きな目標は、「特殊研究」担当教員の指導のもと、研究者としての資質を養うとともに、博士学位請求論文（博士論文）を作成することである。

博士論文の枚数は、学位論文審査基準に示すとおり、400～600枚（1枚400字換算、以下同）程度が求められる。この数字は、後期課程の在学期間である3年間で実現するにはかなりの努力を必要とするが、前期課程在学中から綿密な研究計画に基づき準備を進めて行けば、決して不可能なものではない。

ただし、諸事情によりこの期間では論文作成が困難となった場合、期間の延長が可能である。

博士前期課程 (研究準備期間)

博士論文作成（課程博士）は、大学・大学院在学における研究の集大成であると言っても過言ではない。したがって指導教員との相談・助言を経て計画的に研究を進めることが必要である。修士論文提出後は、すみやかに内容を、30～50枚程度にまとめ、学会誌や研究誌等に投稿することが望ましい。

本学ではディプロマ・ポリシーにおいて、研究論文を学会誌や研究誌に公表することを義務付けているが、これはできるだけ多く内外の研究者による評価の機会を持つため、これによって研究に対する新たな視座の提示や、教示・知見を得ることが可能となるからである。

以下は、後期課程3年間で博士論文を書き上げるためのおおよその流れである。参考にしながら、自らの状況も勘案して無理のない研究計画を立てること。

博士後期課程 1年次

「特殊研究」を履修し、年初には修士論文の検証、自らの研究計画の見直しを行い、「研究計画書」を提出する。その後は、自らの研究における問題点をよく整理し、必要に応じて教員の助言を受けながら、一つ一つ課題を克服して、年度内に30～50枚の論文、研究ノートなど1～2本を学会誌等で公表する。また、所属学会での発表も視野に入れ、年度末には研究の中間報告を行う。

なお、後期課程3年間では、指導教員のRA（リサーチ・アシスタント）として、調査研究に関わり、TA（ティーチング・アシスタント）として後輩の指導や助言を積極的に行うこと。また、教員と相談の上で大学院インターンシップ制度を利用し、外部研究機関での実習にも取り組むことが望まれる。

博士後期課程 2年次

引き続き「特殊研究」を履修し、年初には前年度の研究計画の見直しを行い、「研究計画書」を提出する。計画に従って調査・研究を進め、年度内に50枚程度の論文1～2本を学会誌等で公表する。あわせて博士論文の構成を作成し、年度末には、研究の中間報告を行う。

博士後期課程 3年次

引き続き「特殊研究」を履修し、年初には前年度の研究計画の見直しを行い、「研究計画書」を提出するとともに、博士論文作成に向けて所定の手続きを進める。前期には、計画に従って調査・研究を進め、50枚程度の論文1～2本を学会誌等で公表する。後期には、それまでに公表した論文等を訂正・加筆し、さらに必要事項を加えて、400～600枚程度の博士学位請求論文として仕上げ提出する。

提出された学位請求論文は、予備審査を経て審査受理の可否が決まり、受理の場合は本審査、公聴会、最終試験等を経て最終的に博士号学位授与の可否が審議される。

※シラバスは、帝塚山大学ホームページで公開しています。
(<http://www.tezukayama-u.ac.jp/>)

2022年度 人文科学研究科日本伝統文化専攻 博士前期課程 (実績)

授業科目		配当年次	単位数	担当者	
基礎科目	日本伝統文化特論	1・2	2	大学院担当教員	
	奈良学特論	1・2	2	大学院担当教員	
研究指導科目	民俗学演習	1～2	8	教授 高田 照世	
	考古学演習	1～2	8	教授 清水 昭博	
	美術史演習	1～2	8	教授 杉崎 貴英	
	日本史演習	1～2	8	教授 鷺森 浩幸	
	古典文学演習	1～2	8	教授 後藤 博子	
関連講義科目	I群	民俗学特論 A	1・2	2	教授 高田 照世
		民俗学特論 B	1・2	2	教授 高田 照世
		民俗学特論 C	1・2	2	講師 岩坂 七雄
		民俗学特論 D	1・2	2	講師 岩坂 七雄
		民俗学特論 E	1・2	2	講師 黒田 一充
		民俗学特論 F	1・2	2	講師 黒田 一充
	II群	考古学特論 A	1・2	2	講師 伊藤 純
		考古学特論 B	1・2	2	講師 伊藤 純
		考古学特論 C	1・2	2	講師 今尾 文昭
		考古学特論 D	1・2	2	講師 今尾 文昭
		考古学特論 E	1・2	2	講師 深澤 芳樹
		考古学特論 F	1・2	2	講師 深澤 芳樹
	III群	美術史特論 A	1・2	2	教授 杉崎 貴英
		美術史特論 B	1・2	2	教授 杉崎 貴英
		美術史特論 C	1・2	2	講師 関根 俊一
		美術史特論 D	1・2	2	講師 関根 俊一
		美術史特論 E	1・2	2	2022年度不開講
		美術史特論 F	1・2	2	2022年度不開講
	IV群	日本史特論 A (古代)	1・2	2	教授 鷺森 浩幸
		日本史特論 B (古代)	1・2	2	教授 鷺森 浩幸
		日本史特論 C (中世)	1・2	2	准教授 花田 卓司
		日本史特論 D (中世)	1・2	2	准教授 花田 卓司
		日本史特論 E	1・2	2	講師 奥本 武裕
		日本史特論 F	1・2	2	講師 奥本 武裕
	V群	古典文学特論 A	1・2	2	教授 後藤 博子
		古典文学特論 B	1・2	2	教授 後藤 博子
		古典文学特論 C	1・2	2	准教授 中川 真弓
		古典文学特論 D	1・2	2	准教授 中川 真弓
		古典演劇特論 A	1・2	2	教授 後藤 博子
		古典演劇特論 B	1・2	2	教授 後藤 博子
古典演劇特論 C		1・2	2	2022年度不開講	
古典演劇特論 D		1・2	2	2022年度不開講	
特別科目	特殊講義	2	2	教授 川口 洋	

※授業内容：民俗学特論 A・B (歴史民俗)、C・D (民俗宗教)、E・F (民俗技術)
 考古学特論 A・B (歴史考古学)、E・F (都城史)
 美術史特論 A (日本古代美術史の諸問題1)、B (日本古代美術史の諸問題2)、C (日本工芸史)、
 D (正倉院宝物)、E (日本中世美術史の諸問題1)・F (日本中世美術史の諸問題2)
 日本史特論 A・B (古代)、C・D (中世)、E・F (近世)
 古典文学特論 A・B (近世文学)、C・D (中世文学)
 古典演劇特論 A・B (近世演劇)、C・D (芸能)

※シラバスは、帝塚山大学ホームページで公開しています。
(<http://www.tezukayama-u.ac.jp/>)

2022年度 人文科学研究科日本伝統文化専攻 博士後期課程（実績）

授業科目		配当年次	単位数	担当者
研究指導科目	民俗学特殊研究	1～3	4	教授 高田 照世
	寺院史特殊研究	1～3	4	教授 清水 昭博
	美術史特殊研究	1～3	4	教授 杉崎 貴英
	日本文化史特殊研究	1～3	4	教授 鷺森 浩幸
	古典文学特殊研究	1～3	4	教授 後藤 博子
関連講義科目	民俗学特殊講義	1・2・3	4	教授 高田 照世
	寺院史特殊講義	1・2・3	4	教授 清水 昭博
	美術史特殊講義	1・2・3	4	教授 杉崎 貴英
	日本文化史特殊講義	1・2・3	4	教授 鷺森 浩幸
	古典文学特殊講義	1・2・3	4	教授 後藤 博子

②人文科学研究科日本伝統文化専攻博士前期課程 学生募集要項

研究科・専攻・課程および募集人員

研究科・専攻・課程	修業年限	募集人員	秋季募集	春季募集
人文科学研究科 日本伝統文化専攻 博士前期課程	2年	8名	4名程度 (一般・社会人・留学生 選考を含む)	4名程度 (一般・社会人・留学生 選考を含む)

1. 出願資格

【一般選考】

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者、または2023年3月までに卒業見込みの者。
- (2) 外国において学校教育16年の課程を修了した者、または2023年3月までに修了見込みの者。
- (3) 文部科学大臣が指定した者。
- (4) 本研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

※出願資格(4)の適用を受けようとする場合は、願書受付開始日の1ヶ月前までに教学支援課(文学部)に問い合せてください。

【社会人選考】

一般選考の出願資格に加えて、大学卒業後、社会での経験が3年以上あり、本研究科が社会人選考有資格者と認めた者。

【留学生選考】

日本国籍を有しない者で次のいずれかに該当する者(ただし、日本永住の在日外国人は、日本人と同じ扱いとする)。

- (1) 大学を卒業した者、または2023年3月までに卒業見込みの者。
- (2) 外国において学校教育16年の課程を修了した者、または2023年3月までに修了見込みの者。
- (3) 本研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

※大学院生として研究内容を理解する日本語能力が必要となるので、合否においても必要とされる日本語能力の有無を考慮する。

2. 出願手続

(1) 出願書類

出願者は、出願書類（4頁参照）をすべて取り揃え、綴じ込みの封筒で郵送してください。（締切日の消印有効）

書類に不備がある場合は、出願を受理しないことがありますので、よく確認したうえで封入してください。

（送付先） 〒631-8585 奈良市学園南 三丁目1-3
帝塚山大学 大学院入試係
TEL 0742-48-9122（総務課）

（問い合わせ先） 教学支援課（文学部） TEL 0742-48-8150

(2) 入学検定料

35,000円

綴じ込みの「入学検定料振込依頼票（B）」で銀行振込みをしてください。

「願書（A）・入学検定料振込依頼票（B）・入学検定料領収書（C）」は、切り離さずに銀行窓口へ提出し、銀行収納印を3ヶ所〔(A)・(B)・(C)〕に押印してもらい、本学へ「願書（A）」のみを提出してください。〔「入学検定料領収書（C）」は各自で保管してください。〕

(3) その他

一旦出願した書類および納入された入学検定料は返還いたしません。

3. 選考日程・選考方法

【秋季募集】

出願期間	2022年8月22日（月）～9月2日（金） 締め切り日消印有効			
選考日程	選考日	2022年9月13日（火）		
	合格発表日	2022年9月20日（火）		
	入学手続き期間	2022年9月20日（火）～10月4日（火） ※入学手続き期間内に学費等を納入し、 入学手続き書類を提出してください。		
選考方法	選考内容 （配点）	筆記試験		口頭試問 （100点）
		英語または漢文 （各100点）	小論文 （200点）	
	選考時間	9：30～10：30 （60分）	11：00～12：30 （90分）	13：30～ （約15分／1人）
	一般選考	英語・漢文 いずれか選択	有	有
	社会人選考	課さない	有	有
留学生選考	課さない	有	有	

【春季募集】

出願期間	2023年1月20日（金）～1月27日（金） 締め切り日消印有効			
選考日程	選考日	2023年2月8日（水）		
	合格発表日	2023年2月15日（水）		
	入学手続き期間	2023年2月15日（水）～3月1日（水） ※入学手続き期間内に学費等を納入し、 入学手続き書類を提出してください。		
選考方法	選考内容	筆記試験		口頭試問 (100点)
		英語または漢文 (各100点)	小論文 (200点)	
	選考時間	9：30～10：30 (60分)	11：00～12：30 (90分)	13：30～ (約15分／1人)
	一般選考	英語・漢文 いずれか選択	有	有
	社会人選考	課さない	有	有
	留学生選考	課さない	有	有

〔試験に関する留意事項〕（秋季・春季募集とも共通）

- (1). 英語の試験は、辞書の持ち込み可（ただし、電子辞書は不可）。
- (2). 一般選考および社会人選考における小論文は「民俗学」「考古学」「美術史」「日本史」「古典文学」の分野から基礎的な知識を問う問題を各1題ずつ出題し、その中から2題を選択して解答する。ただし、解答する2題のうち1題は、必ず、入学願書の「志望する演習科目名」に記載した専門分野と同一の問題を選択して解答すること。
- (3). 留学生選考における小論文では、上記（2）のとおりとする。ただし、解答する2題のうち1題は、必ず、入学願書の「志望する演習科目名」に記載した専門分野と同一の問題を、それ以外の1題は、留学生選考対象の「日本文化に関する基本的な知識」を問う問題を選択して解答すること。
- (4). 口頭試問は、研究内容や専門的知識を問う。
- (5). 試験当日は受験票を携帯し、試験開始10分前までに試験室に入り、係員の指示に従うこと。
- (6). 試験を開始してから30分以上遅刻した者は、受験することができない。ただし、天候の異変・公共の交通機関の遅延その他不可抗力による遅刻の場合は、教学支援課（文学部）または入試本部に申し出て指示を受けること。

4. 試験会場

帝塚山大学東生駒キャンパス（1号館）

京阪神交通路線マップ（裏表紙の裏）を参照してください。

※近鉄奈良線 東生駒駅下車、帝塚山大学行きバスで5分

（学園前キャンパスではありません）

③人文科学研究科日本伝統文化専攻博士後期課程 学生募集要項

研究科・専攻・課程および募集人員

研究科・専攻・課程	修業年限	募集人員
人文科学研究科 日本伝統文化専攻 博士後期課程	3年	2名

1. 出願資格

【一般選考】

次のいずれかに該当する者

- (1) 本大学院または他の大学院において修士の学位を取得した者、または2023年3月取得見込みの者。
- (2) 外国の大学において博士前期課程（修士課程）と同等以上と認められる課程を修了した者、または2023年3月修了見込みの者。
- (3) 本研究科が博士前期課程（修士課程）を修了した者と同等以上の学力があると認めた者。
※出願資格（3）の適用を受けようとする場合は、願書受付開始日の1ヶ月前までに教学支援課（文学部）に問い合わせてください。

【社会人選考】

一般選考の出願資格を得たのち、国内外の教育研究機関、企業ならびに公的機関などに3年以上在籍し、本研究科が社会人選考有資格者と認めた者。

【留学生選考】

日本国籍を有しない者で次のいずれかに該当する者（ただし、日本永住の在日外国人は、日本人と同じ扱いとする）。

- (1) 本大学院または他の大学院において修士の学位を取得した者、または2023年3月取得見込みの者。
- (2) 外国の大学において博士前期課程（修士課程）と同等以上と認められる課程を修了した者、または2023年3月修了見込みの者。
- (3) 本研究科が博士前期課程（修士課程）を修了した者と同等以上の学力があると認めた者。
※大学院生として研究内容を理解する日本語能力が必要となるので、合否においても必要とされる日本語能力の有無を考慮する。

2. 出願手続

(1) 出願書類

出願者は、出願書類（4頁参照）をすべて取り揃え、綴じ込みの封筒で郵送してください。（締切日の消印有効）

書類に不備がある場合は、出願を受理しないことがありますので、よく確認したうえで封入してください。

（送付先） 〒631-8501 奈良市学園南 三丁目1-3
帝塚山大学 大学院入試係
TEL 0742-48-9122（総務課）

（問い合わせ先） 教学支援課（文学部） TEL 0742-48-8150

(2) 入学検定料

35,000円

綴じ込みの「入学検定料振込依頼票（B）」で銀行振込みをしてください。

「願書（A）・入学検定料振込依頼票（B）・入学検定料領収書（C）」は、切り離さずに銀行窓口

へ提出し、銀行収納印を3ヶ所〔(A)・(B)・(C)〕に押印してもらい、本学へ「願書 (A)」のみを提出してください。〔「入学検定料領収書 (C)」は各自で保管してください。〕

(3) その他

一旦出願した書類および納入された入学検定料は返還いたしません。

3. 選考日程・選考方法

出願期間	2023年1月20日（金）～1月27日（金） 締め切り日消印有効			
選考日程	選考日	2023年2月8日（水）		
	合格発表日	2023年2月15日（水）		
	入学手続き期間	2023年2月15日（水）～3月1日（水） ※入学手続き期間内に学費等を納入し、 入学手続き書類を提出してください。		
選考方法	選考内容	筆記試験		口頭試問 (100点)
		史料読解 (漢文・古文を含む) (100点)	小論文 (200点)	
	選考時間	9:30～10:30 (60分)	11:00～12:30 (90分)	13:30～
	一般選考	有	有	有
	社会人選考	課さない	有	有
	留学生選考	課さない	有	有

[試験に関する留意事項]

- (1). 本研究科博士前期課程を修了した者または修了見込みの者には、筆記試験（史料読解、小論文）は課さない。
- (2). 史料読解の試験は、持ち込み不可。
- (3). 小論文は、「民俗学」「寺院史」「仏教美術史」「日本文化史」「古典文学」の分野から専門的な知識を問う問題を各1題ずつ出題し、その中から1題を選択して解答する。ただし、必ず、入学願書の「志望する特殊研究名」に記載した専門分野と同一の問題を解答すること。
- (4). 口頭試問は、研究内容や専門的知識を問う。
- (5). 試験当日は受験票を携帯し、試験開始10分前までに試験室に入り、係員の指示に従うこと。
- (6). 試験を開始してから30分以上遅刻した者は、受験することができない。ただし、天候の異変・公共の交通機関の遅延その他不可抗力による遅刻の場合は、教学支援課（文学部）または入試本部に申し出て指示を受けること。

4. 試験会場

帝塚山大学東生駒キャンパス（1号館）

京阪神交通路線マップ（裏表紙の裏）を参照してください。

※近鉄奈良線 東生駒駅下車、帝塚山大学行きバスで約5分
（学園前キャンパスではありません）

心理科学研究科 心理学専攻

心理学専修・臨床心理学専修

博士前期課程

博士後期課程

人材養成目的（「帝塚山大学大学院学則」第5条）

心理科学研究科心理科学専攻博士前期課程は、心理学の科学的側面と実践的側面を重視した研究能力を養い、科学的アプローチ、地域での実践活動、学際研究及び国際交流という4つの方針を軸に研究を推進することで、現代社会における心理社会的な諸問題を解決するための提案や対処のできる高度な専門職業人を養成することを目的とする。

※心理学専修では、現代社会の心理科学専門家として必要な知識や技能を習得し、問題解決を実践できる人材の養成を目指す。臨床心理学専修では、地域社会や社会システム全体での心のケアとサポートの専門家として活躍できる人材の養成を目指す。

心理科学研究科心理科学専攻博士後期課程は、自立して研究活動を行うに必要な心理学の科学的側面と実践的側面を重視した高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養い、科学的アプローチ、地域での実践活動、学際研究及び国際交流という4つの方針を軸に更なる研究を推進することで、現代社会における心理社会的な諸問題を解決するために提案や対処のできるより高度な専門職業人の養成や心理科学の専門的研究者を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

〔博士前期課程〕

心理科学研究科心理科学専攻博士前期課程は、所定の期間在学し、本研究科の定めるところにより、授業科目を40単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格するとともに、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に修了を認定し、学位を授与する。そのために、本研究科のアセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）を策定する。

1. 〈専門的知識と技能〉
人間と社会の諸問題を心理学的アプローチで解決できる高度な知識と技能を身につけている。
心理学専修においては人間行動のメカニズムを理解するとともに社会問題の理解と解決にかかわる高度な技能と知識を身につけている。
臨床心理学専修においては人々の精神的健康の問題解決に役立つ高度な知識と技能を身につけている。
2. 〈知識や技能の活用〉
変化する社会状況に応じて、修得した専門的知識や技能に基づいて、心理学的な立場から人間や社会の諸問題についての提案ができる。
3. 〈主体的な意識と態度〉
心理学の専門的知識や技能をもとに、人間や社会の諸問題の解決を目指し、その実現のために主体的に学ぶことができる。
4. 〈多様なコミュニケーション〉
研究や問題解決のために、関係する人々や他機関と協同連携し、学際的な領域にも関わることができる。
5. 〈社会人としての自立〉
心理学分野における専門職業人を目指す者としての自覚と責任感を持ち、地域や社会に貢献できる社会の一員として適切な行動ができる。

〔博士後期課程〕

心理科学研究科心理科学専攻博士後期課程は、所定の期間在学し、本研究科の定めるところにより、授業科目を4単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格するとともに、以下の知識・能力・資質等を身につけた者に修了を認定し、学位を授与する。そのために、本研究科のアセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）を策定する。

1. 〈専門的知識と技能〉
心理学に関する専門的かつ高度な知識や技能を有し、それに基づいて心理諸現象のメカニズムを科学的・実証的に解明し、国際的水準での情報発信を行うことができる。
2. 〈知識や技能の活用〉
多面的・総合的な視点から世界を捉え、卓越した思考力・判断能力をもって、人間や社会に関わる諸問題についての提案や解決ができる。
3. 〈主体的な意識と態度〉
心理学に関するより高度な専門的知識や技能をもとに、人間や社会の諸問題の解決を目指し、その実現のために主体的に学ぶことができる。
4. 〈多様なコミュニケーション〉
より高度な研究を行い、問題解決のために、関係する人々や他機関と協同連携し、学際的な領域にも関わることができる。
5. 〈社会人としての自立〉
心理学分野の専門的研究者・教育者・職業人を目指す者としての自覚と責任感を持ち、ひろく社会に貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

〔博士前期課程〕

心理学に関する幅広い高度な知識や技能を修得するために、心理科学基礎研究科目として【心理科学基礎研究Ⅰ群科目】と【心理科学基礎研究Ⅱ群科目】を配置し、両専修に必要な知識や技能を修めるために、Ⅰ群科目では「心理科学基礎論Ⅰ・Ⅱ」や「実験心理学特論」を、Ⅱ群科目では「心理統計法特論」などを履修させる。また、各専修基礎研究科目として、心理学専修は「心理学文献講読演習Ⅰ・Ⅱ」など、臨床心理学専修は「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」、「臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ」や「心理実践実習（基礎Ⅰ～Ⅳ）」などの科目を設けることで、各専修の基本的な学修を満たすようにする。さらに、各専修に特化した「Ⅰ・Ⅱ科目群」を配置し、各専修の専門性を高める科目—心理学専修においては、知覚心理学、社会心理学、犯罪心理学、交通心理学、パーソナリティ心理学などの専門科目、臨床心理学専修においては、「精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」や「グループ・アプローチ特論」、「臨床心理地域援助特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」などの医学・臨床心理学の専門科目を履修させ、より高度な知識や技能を修得できるようにする。さらに、「特別演習」という科目群を配置し、修士論文の作成に関する研究指導を充実させる。

学修成果については、アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）にもとづき評価する。

〔博士後期課程〕

心理学に関する専門的かつ高度な知識や技能を修得し、基礎・臨床・社会応用に関する高度な研究を行うために「知覚心理学特殊講義」、「社会心理学特殊講義」、「人格心理学特殊講義」、「交通心理学特殊講義」および「臨床心理学特殊講義」の5つの特殊講義を設置し、その知識を基礎として研究を進めるべく、それぞれの特殊講義に対応した「知覚心理学特殊研究」、「社会心理学特殊研究」、「人格心理学特殊研究」、「交通心理学特殊研究」および「臨床心理学特殊研究」を設置し、わが国の心理学分野の高度職業人および心理学研究者を育成するための特色のある構成とする。

また、国内外の学会発表や学会誌への論文投稿などを通して自らの研究成果を発信するとともに、最終的にはそれらの成果を博士学位論文にまとめる力を育成するために研究指導を充実させる。

学修成果については、アセスメントプラン（アセスメント・ポリシー）に基づき評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

心理科学研究科心理科学専攻は、教育理念に掲げた人材を育成するために、以下のことを入学者に求める。

〔博士前期課程〕

両専修に関連した諸問題に深い関心を持ち、人々の安寧と福祉の向上に情熱を燃やし、次のいずれにも当てはまる人を望む。

1. 学部教育等において、心理学の諸領域に関する広範な知識や技能を修得していること。
2. 自らの専門領域に関心を持つことはもちろん、人間に対する幅広い興味や関心を持っていること。
3. 自ら学んだことを他者に効果的に伝達できること。
4. 他者を尊重し、協調できること。
5. 自らの心身の健康に配慮し、ユーモアの精神を持ち、豊かな指導力を有すること。
6. 本課程が掲げる人材養成目的を理解していること。

このような入学者の選抜は、英語および専門分野の筆記試験、研究内容・専門的知識を問う面接試験を課し、志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価して実施する。

〔博士後期課程〕

次のいずれにも当てはまる人を望む。

1. 心理学系の博士前期（修士）課程を修了もしくは同程度と思われる知識や技能等を有していること。
2. 心理学の専門的な知識や技能に基づいて、独創性かつ汎用性の高い研究活動を行い、国際的な視点からそれらを発信できること。
3. 自身の専門領域に限らず、心理学および隣接する諸領域の知見を活かしながら、人間・社会に関する諸問題の解決に強い関心を持つこと。
4. 将来的に高等教育・研究機関での教育や研究に従事し、国際社会に貢献する目標を持っていること。
5. 本課程が掲げる人材養成目的を理解していること。

このような入学者の選抜は、筆記試験および研究計画書・修士論文に基づいた面接試験を課し、志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価して実施する。

※人材養成目的および3つのポリシーは、より深い理解につながるよう、内容や表現等について定期的な見直しを行っています。

①心理科学研究科心理学専攻の概要

〔研究科の構成と特色〕

本研究科では、「心の時代」における人間と社会の問題に正面から取り組むことを目指している。家庭や学校現場での児童虐待やいじめ、高齢社会における介護や雇用、科学技術の発展に伴う事故や災害の問題など、現代社会は多くの解決困難な諸問題に直面している。一方で、近年の生命科学の発展に伴い、人間の精神活動に関する神経科学等の貢献も大きく、心理学の知見が他分野でも取り入れられるなど、学際的な研究教育活動が幅広く行われるようになってきた。

そこで本研究科では、心理学の科学的側面と実践的側面の両者を重視して、心理学を中核とする人間行動研究を基盤として問題解決を図ることを目指し、1) 科学的アプローチ、2) 地域での実践活動、3) 学際研究、及び4) 国際交流という4つの方針を軸に研究を推進することで、現代社会の諸問題を理解、解決できる高度な専門的職業人や研究者の養成を目的としている。

本研究科の専攻は「心理学専攻」とし、博士前期課程及び博士後期課程を設置している。とくに博士前期課程には、人間行動のメカニズムの理解や社会問題の理解と解決を目標とした「心理学専修」と、人々の精神的健康の問題解決に寄与する「臨床心理学専修」の2専修を置いている。

〔博士前期課程〕（心理学専修・臨床心理学専修）

心理学専修では現代社会の心理学専門家や研究者として必要な資質を習得し、問題解決を実践できる人材の養成を目指して、健康心理士や主任交通心理士、応用心理士などの養成に必要な専門科目群を配置する。

まず【基礎研究科目】として「心理学文献講読演習Ⅰ・Ⅱ」や「心理基礎実習」、「心理応用実習」という基幹科目を履修する。次いで【心理学Ⅰ群科目】では「神経生理学特論」や「知覚心理学特論」などの人間行動のメカニズムを理解する科目群とともに、「社会心理学特論」や「交通心理学特論」のように社会的行動の問題理解と解決に関わる科目群を配置している。【心理学Ⅱ群科目】では、「認知心理学特論」や「対人行動学特論」など専門性の高い科目を開設して理解を深めるとともに、将来の職業志向に応じて「老年心理学特論」、「健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）」、「産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」などの科目を開設した。

臨床心理学専修では地域社会での心のケアとサポートの専門家として活躍できる人材を養成することを目指しており、かつ公認心理師（国家資格）および臨床心理士（第一種大学院に指定）の受験資格取得に必要な専門科目群を配置した。

まず【基礎研究科目】として「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」や「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・Ⅱ」、「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習（基礎Ⅱ））・Ⅱ」などの基幹科目を履修する。次いで、【臨床心理Ⅰ群科目】では「精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」などの医学系科目を履修し、【臨床心理Ⅱ群科目】では「グループ・アプローチ特論」などの臨床心理学の専門科目を開設している。さらに地域社会との連携を深めるために「臨床心理地域援助特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」などの科目を開設している。

2専修の共通履修科目として、【心理科学基礎研究Ⅰ群科目】と【心理科学基礎研究Ⅱ群科目】を配置した。特に【Ⅰ群科目】では「心理科学基礎論Ⅰ」を必修科目として履修させるほか、「心理科学基礎論Ⅱ」や「実験心理学特論」などを選択履修させる。また【Ⅱ群科目】では「心理統計法特論」を必修科目として履修させる。

〔博士後期課程〕

博士後期課程においては前期課程における研究をさらに発展させ、かつ深化させるために、「社会心理学特殊研究」、「人格心理学特殊研究」および「臨床心理学特殊研究」の各研究指導科目を開設、博士学位論文の作成指導を行うとともに、研究推進に必要な関連講義科目として、「社会心理学特殊講義」、「人格心理学特殊講義」および「臨床心理学特殊講義」を開設している。わが国の心理学分野の高度職業人および心理学研究者を育成するための特色のある構成となっている。

〔大学院生の指導体制〕

学生各人の希望する専攻分野および研究課題に応じてそれぞれ指導教員を定め、学位論文の作成等の研究指導を行う。指導教員以外の教員も積極的に助力する。

〔将来の進路〕

本研究科は、地域や企業の心理学に関わる高度職業人や専門家（心理職、技術職、研究職）、公務員、スクールカウンセラー、産業カウンセラーなどとして地域に貢献できる人材を養成しようとするものである。心理学専攻では主任交通心理士や応用心理士などを目指すことができ、臨床心理学専修は公認心理師（国家資格）および臨床心理士（第1種大学院に指定）の受験資格を取得できる。

※公認心理師の受験資格について、詳細は一般社団法人日本心理研修センターのウェブサイト参照のこと。

〔大学院前期課程の修了者の進路について〕

2006年入学の第1期生から2020年入学の第15期生まで。（2022年4月1日現在）

就職先のうち専任職（正社員、正職員、常勤職員、嘱託も含む）は*印、嘱託職（週3日以内）、非常勤職（複数の兼任も含む）は無印。

進学先

岡山大学大学院博士後期課程
京都大学大学院博士後期課程
中京大学大学院博士後期課程
帝塚山大学大学院博士後期課程

東海大学大学院博士後期課程
同志社大学大学院博士後期課程
早稲田大学大学院博士後期課程

就職先 大学

大阪大谷大学特別支援教育実践研究センター
*大阪国際大学学生相談室
大阪商業大学学生相談室
大阪大学特任研究員
大手前大学非常勤講師
*金沢大学子どものこころの発達研究センター
*京都府立医科大学大学院
*樟蔭東短期大学
*千里金蘭大学看護学部精神看護領域
*帝塚山大学学生相談室

*帝塚山大学心のケアセンター
帝塚山大学心理学部非常勤講師
帝塚山大学大学院非常勤講師
*同志社大学心理学部
奈良教育大学特任助教
奈良教育大学特別支援教育研究センター
*湊川短期大学
立命館大学非常勤講師
和歌山県立医科大学小児成育医療支援室
和歌山大学保健センター

企業

*アイエムエフ株式会社
*株式会社オキナワマリニサーチセンター
*株式会社鞆工房山本
*株式会社タケナカ
*株式会社トヨタ名古屋教育センター中部日本自動車学校
*株式会社ネットケアサービス

*デコボコベース株式会社
*西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
*三菱自動車株式会社
*室町機械株式会社
*EAP株式会社リマインド

病院/医療系

五十嵐こころのクリニック
今川クリニック
*医療法人栄心会デイケアバックアップセンターきょうと
医療法人健心会精神科デイケアリサーチ
医療法人光司会神宮前こころのクリニック
*医療法人鳥取生協病院心療科
医療法人不動心宋こどものこころ醫院
*医療法人友絃会彩都友絃会病院
*医療法人養心会国分病院
音楽療法室スイートホーム
*香芝市保健センター
かねこクリニック
関西ろうさい病院
きたまちクリニック

きょうこころのクリニック
静波こころの診療所
情緒障害児短期治療施設みらい
菅原クリニック
住道こころのクリニック
たちメンタルクリニック
つかさき医院精神科デイケアシエスタ
*津市香良洲保健センター
豊中市保健所
中内こどもクリニック
*奈良県総合医療センター
奈良県立医科大学附属病院
奈良こころとからだのクリニック
*安原こどもクリニック

教育/福祉施設

- 池田市教育研究所
生駒市子育て支援総合センターこどもサポートセンターゆう
- * 生駒市ことばの教室
 - * 一般社団法人のあ
 - * 近江八幡市発達相談員
 - 大阪市北区役所
 - * 大阪市青少年子ども局
 - 大阪府中央子ども家庭センター
 - 香芝市保健センター心の健康相談室
 - * 橿原市心身障害児訓練施設かしの木園
 - 橿原市スクールカウンセラー
 - * 橿原市福祉部子育て支援課
 - * 株式会社クラ・ゼミこどもサポート教室
 - 株式会社クリップオン・リレーションズあすはな先生
 - 株式会社クリンミル発達障害支援センター
 - * 株式会社KEGキャリアアカデミー児童発達支援放課後等デイサービス
 - 学校法人大谷学園大谷さやまこども園
 - 京都府宇治児童相談所
 - 京都府家庭支援総合センター
 - 京都府児童相談所
 - * 京都府立舞鶴子ども療育センター
 - 京都ライトハウスあいあい教室
 - くぼたこどもクリニック
 - 神戸市こども家庭センター
 - 児童発達支援センターしおん
 - * 児童養護施設いかるが園
 - 児童養護施設松柏学園
 - 児童養護施設女子慈教寮
 - 児童養護施設武田塾
 - * 社会福祉法人青葉仁会
 - * 社会福祉法人飛鳥学院児童家庭支援センターあすか
 - * 社会福祉法人飛鳥学院児童養護施設飛鳥学院
 - 社会福祉法人大阪水上隣保館乳児院
 - 社会福祉法人四天王寺社会福祉事業団
 - 社会福祉法人バルツア事業会バルツア・ゴードル
 - 社会福祉法人東大阪市社会福祉事業団発達障がい支援センター
 - 社会福祉法人宝山寺福祉事業団いこま乳児院
 - * 社会福祉法人美樹和会
 - 社会福祉法人みささぎ会
 - 東大寺福祉療育病院東大寺明光園
 - 奈良県教育委員会スクールカウンセラーに準ずるもの
 - 奈良県教育委員会生活指導支援室
 - * 奈良県教育研究所
 - 奈良県スクールカウンセラー
 - 奈良県精神保健福祉センター
 - 奈良県中央こども家庭相談センター
 - 奈良市子ども発達センター
 - 奈良市児童相談所設置推進課
 - 奈良YMCA心のフリースクール
 - 奈良YMCA発達障害児サポートプログラム「らぼーる」
 - * 東大阪市教育センター
 - * 彦根子ども家庭相談センター
 - * ふくしま心のケアセンター
 - めばえ国際学園

その他

奈良県臨床心理士会事務局

NPO法人大学院連合メンタルヘルスセンター

〔入試状況〕

博士前期課程

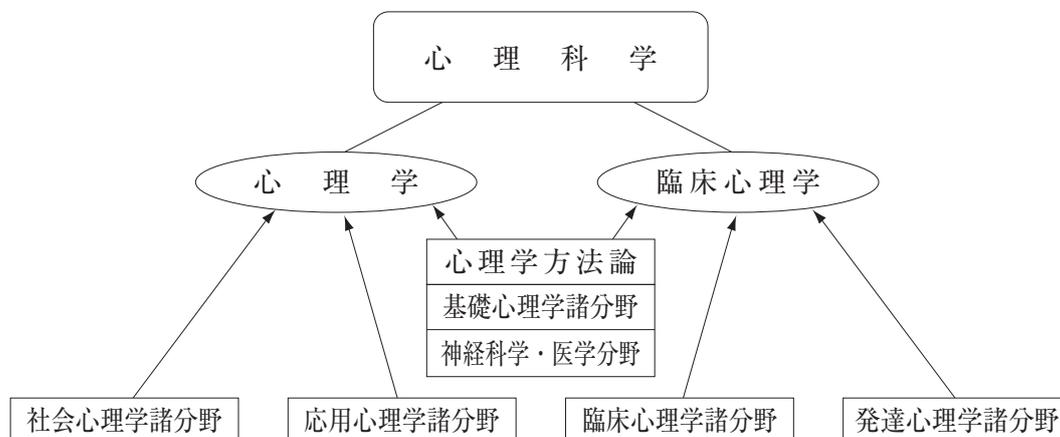
専修別	2020年度入試			2021年度入試			2022年度入試			
	秋季募集	春季募集	合計	秋季募集	春季募集	合計	秋季募集	春季募集	合計	
心理学専修	志願者	0	1	1	0	0	0	1	0	1
	受験者	0	1	1	0	0	0	1	0	1
	合格者	0	1	1	0	0	0	1	0	1
	入学者	0	1	1	0	0	0	1	0	1
臨床心理学専修	志願者	20	11	31	13	5	18	19	20	39
	受験者	19	9	28	12	5	17	17	19	36
	合格者	6	4	10	4	2	6	6	8	14
	入学者	5	2	7	4	2	6	2	3	5
合計	志願者	20	12	32	13	5	18	20	20	40
	受験者	19	10	29	12	5	17	18	19	37
	合格者	6	5	11	4	2	6	7	8	15
	入学者	5	3	8	4	2	6	3	3	6

博士後期課程

		2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試
心理科学専攻	志願者	0	0	2
	受験者	0	0	2
	合格者	0	0	1
	入学者	0	0	1

心理科学専攻博士前期課程 の研究体系及び科目構成

1. 心理科学の研究体系



2. 研究分野と授業科目構成

修士論文指導 <特別演習科目>

分野 科目	心理学専修	臨床心理学専修
実習・演習科目	心理学文献講読演習 心理学基礎実習 心理学応用実習	臨床心理査定演習※ 臨床心理基礎実習※ 臨床心理実習※ 心理実践実習※ 臨床心理実習指導※
講義科目	心理学基礎論Ⅰ	心理統計法特論
	神経生理学特論 知覚心理学特論 パーソナリティ心理学特論 社会心理学特論 犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) 交通心理学特論 認知心理学特論 対人行動学特論 老年心理学特論 健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践) 産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論※ 臨床心理面接特論※ 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) 障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) 心理療法特論※ グループ・アプローチ特論※ 学校臨床心理学特論※ (教育分野に関する理論と支援の展開) 臨床心理地域援助特論※ (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)
	心理学基礎論Ⅱ	実験心理学特論

(※印の科目は、臨床心理学専修の学生のみ履修できる。)

©シラバスは、帝塚山大学ホームページで公開しています。
(<http://www.tezukayama-u.ac.jp/>)

2022年度 心理科学研究科 心理科学専攻 博士前期課程 (実績)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	担当者		
心理科学基礎研究	I群科目	心理科学基礎論Ⅰ	1・2	2	教授 水野邦夫 教授 蓮花一己	
		心理科学基礎論Ⅱ	1・2	2	教授 川合悟	
		実験心理学特論	1・2	2	教授 水野邦夫	
	II群科目	心理統計法特論	1・2	2	講師 東正訓	
		臨床心理学研究法特論	1・2	2	准教授 河越隼人 准教授 森田健一	
心理学専修	基礎研究科目	心理学文献講読演習Ⅰ	1・2	2	教授 谷口淳一	
		心理学文献講読演習Ⅱ	1・2	2	教授 谷口淳一	
		心理基礎実習	1・2	2	教授 谷口淳一 講師 永石高敏	
		心理応用実習	2	2	教授 谷口淳一 講師 森泉慎吾	
	I群科目	神経生理学特論	1・2	2	講師 山本隆宣	
		知覚心理学特論	1・2	2	教授 川合悟	
		パーソナリティ心理学特論	1・2	2	教授 水野邦夫	
		社会心理学特論	1・2	2	教授 谷口淳一	
		犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1・2	2	准教授 花田百造	
		交通心理学特論	1・2	2	教授 蓮花一己	
	II群科目	認知心理学特論	1・2	2	講師 竹原卓真	
		対人行動学特論	1・2	2	教授 谷口淳一	
		老年心理学特論	1・2	2	教授 奥村由美子	
		健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	1・2	2	講師 大久保純一郎	
		産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	1・2	2	講師 中井宏	
	臨床心理学専修	基礎研究科目	臨床心理学特論Ⅰ※	1・2	2	准教授 山口祐子
			臨床心理学特論Ⅱ※	1・2	2	教授 奥村由美子
			臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)※	1・2	2	准教授 河越隼人
			臨床心理面接特論Ⅱ※	1・2	2	教授 中地展生
			臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)※	1・2	2	教授 奥村由美子
臨床心理査定演習Ⅱ※			1・2	2	准教授 森田健一	
臨床心理基礎実習※			1・2	2	教授 奥村由美子 准教授 河越隼人 講師 式部陽子	
臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習(基礎Ⅱ))※			2	1	教授 中地展生 准教授 森田健一 准教授 山口祐子	

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	担当者	
臨床心理学専修	基礎研究科目	臨床心理実習Ⅱ※	2	1	教授 中地展生 准教授 森田健一 准教授 山口祐子
		心理実践実習(基礎Ⅰ)※	1・2	1	教授 奥村由美子 教授 中地展生 准教授 河越隼人 准教授 森田健一 准教授 山口祐子 講師 式部陽子
		心理実践実習(基礎Ⅲ)※	2	1	教授 奥村由美子 准教授 河越隼人 講師 式部陽子
		心理実践実習(基礎Ⅳ)※	2	1	教授 中地展生 准教授 森田健一 准教授 山口祐子
		心理実践実習(応用Ⅰ)※	1・2	2	教授 奥村由美子 教授 中地展生 准教授 河越隼人 准教授 花田百健 准教授 森田健一 准教授 山口祐子 講師 式部陽子
		心理実践実習(応用Ⅱ)※	2	4	教授 奥村由美子 教授 中地展生 准教授 河越隼人 准教授 森田健一 准教授 山口祐子 講師 式部陽子
		臨床心理実習指導Ⅰ※	1・2	1	准教授 河越隼人 講師 式部陽子
		臨床心理実習指導Ⅱ※	1・2	1	准教授 山口祐子
		臨床心理実習指導Ⅲ※	2	2	教授 奥村由美子 教授 中地展生 准教授 河越隼人 准教授 森田健一 准教授 山口祐子 講師 式部陽子
	Ⅰ群科目	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1・2	2	講師 谷向知
		障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	2	講師 大久保純一郎
	Ⅱ群科目	心理療法特論※	2	2	准教授 河越隼人
		グループ・アプローチ特論※	1・2	2	教授 中地展生
		学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)※	2	2	教授 中地展生
		臨床心理地域援助特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)※	2	2	教授 中地展生

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	担当者
特別演習	知覚心理学特別演習Ⅰ	1・2	4	(不開講)
	知覚心理学特別演習Ⅱ	2	4	(不開講)
	社会心理学特別演習Ⅰ	1・2	4	教授 谷口 淳一
	社会心理学特別演習Ⅱ	2	4	(不開講)
	人格心理学特別演習Ⅰ	1・2	4	教授 水野 邦夫
	人格心理学特別演習Ⅱ	2	4	(不開講)
	交通心理学特別演習Ⅰ	1・2	4	(不開講)
	交通心理学特別演習Ⅱ	2	4	(不開講)
	臨床心理学特別演習Ⅰ	1・2	4	教授 奥村 由美子 教授 中地 展生 准教授 河越 隼人 准教授 森田 健一 准教授 山口 祐子
	臨床心理学特別演習Ⅱ	2	4	教授 中地 展生 准教授 河越 隼人 准教授 森田 健一 准教授 山口 祐子

(注) ※印の科目は、臨床心理学専修の学生のみ履修できる。

[入学願書 (A) ウラ面の記入上の注意]

入学願書ウラ面の「志望する演習科目名」欄には、上記5つの「特別演習」のうち、希望する演習名を記入すること。

2022年度 心理科学研究科 心理科学専攻 博士後期課程 (実績)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	担当者
研究指導科目	知覚心理学特殊研究	1～3	4	不開講
	社会心理学特殊研究	1～3	4	教授 谷口 淳一
	人格心理学特殊研究	1～3	4	教授 水野 邦夫
	交通心理学特殊研究	1～3	4	不開講
	臨床心理学特殊研究	1～3	4	教授 奥村 由美子 教授 中地 展生
関連講義科目	知覚心理学特殊講義	1・2・3	4	不開講
	社会心理学特殊講義	1・2・3	4	教授 谷口 淳一
	人格心理学特殊講義	1・2・3	4	教授 水野 邦夫
	交通心理学特殊講義	1・2・3	4	不開講
	臨床心理学特殊講義	1・2・3	4	教授 奥村 由美子 教授 中地 展生

②心理科学研究科心理科学専攻博士前期課程 学生募集要項

研究科・専攻・課程・専修および募集人員

研究科・専攻・課程・専修		修業年限	募集人員	秋季募集	春季募集
心理科学研究科 心理科学専攻 博士前期課程	心理学専修	2年	5名	3名程度	2名程度
	臨床心理学専修	2年	15名	9名程度	6名程度

1. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者、または2023年3月までに卒業見込みの者。
- (2) 外国において学校教育16年の課程を修了した者、または2023年3月までに修了見込みの者。
- (3) 文部科学大臣が指定した者。
- (4) 本研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

※出願資格(4)の適用を受けようとする場合は、出願受付開始日の1ヵ月前までに教学支援課(心理学部)(問い合わせ先8頁参照)に問い合わせてください。

- (注) [外国人留学生の場合] 独立行政法人日本学生支援機構の日本留学試験「日本語」科目において合計240点以上の成績を持つことが望ましい。大学院生として研究内容を理解する日本語能力が必要となるので、合否判定においても、必要とされる日本語能力の有無を考慮します。

2. 出願手続

(1) 出願書類

出願者は、出願書類(4頁～6頁参照)をすべて取り揃え、綴じ込みの封筒で郵送してください。(締め切り日の消印有効)

書類不備の場合は、出願を受理しない場合がありますので、よく確認したうえで封入してください。

(送付先) 〒631-8585 奈良市学園南三丁目1-3
帝塚山大学 大学院入試係
TEL 0742-48-9122 (総務課)

(問い合わせ先) 教学支援課(心理学部) TEL 0742-41-4720

(2) 入学検定料

35,000円

綴じ込みの「入学検定料振込依頼票(B)」で銀行振込みをしてください。

「願書(A)・入学検定料振込依頼票(B)・入学検定料領収書(C)」は、切り離さずに銀行窓口へ提出し、銀行収納印を3ヶ所〔(A)・(B)・(C)〕に押印してもらい、本学へ「願書(A)」のみを提出してください。〔「入学検定料領収書(C)」は各自で保管してください。〕

振込期間は出願期間と同じです。但し、最終日の銀行窓口取扱時間に注意してください。

(3) その他

一旦出願された書類および納入された入学検定料は、返還いたしません。

3. 選考日程・選考方法

【秋季募集】

出願期間	2022年8月22日（月）～9月2日（金）締め切り日消印有効			
選考日程等	選考日	2022年9月13日（火）		
	合格発表日	2022年9月20日（火）		
	入学手続き期間	2022年9月20日（火）～10月4日（火） ※入学手続き期間内に学費等を納入し、 入学手続き書類を提出してください。		
選考方法	選考内容 （配点）	筆記試験		面接試験 （200点）
		英 語 （100点）	心理学 （200点）	
	選考時間	9：30～10：30 （60分）	11：00～12：30 （90分）	14：00～ （約15分／1人）

【春季募集】

出願期間	2023年1月20日（金）～1月27日（金）締め切り日消印有効			
選考日程等	選考日	2023年2月8日（水）		
	合格発表日	2023年2月15日（水）		
	入学手続き期間	2023年2月15日（水）～3月1日（水） ※入学手続き期間内に学費等を納入し、 入学手続き書類を提出してください。		
選考方法	選考内容 （配点）	筆記試験		面接試験 （200点）
		英 語 （100点）	心理学 （200点）	
	選考時間	9：30～10：30 （60分）	11：00～12：30 （90分）	14：00～ （約15分／1人）

[受験の際の注意事項]（秋季・春季募集とも共通）

(1) 筆記試験について

- ・英語および心理学は、心理学専修および臨床心理学専修の専修別に出題します。
- ・英語の試験は、英和辞典のみの持ち込みを許可します（和英辞典や電子辞書は持ち込み不可）。

(2) 面接試験について

- ・複数の面接室に分かれて受験生1人ずつ面接を行います。受験生が多い場合はかなりの待ち時間が予想されます。予めご了解ください。
- ・各受験者の面接開始時刻は試験当日に発表（掲示）します。

(3) その他

- ・試験を開始してから30分以上遅刻した者は、受験することができません。ただし、天候の異変・公共の交通機関の遅延その他不可抗力による遅刻の場合は、教学支援課（心理学部）または入試本部に申し出て指示を受けてください。
- ・試験時間中は、携帯電話及びスマートウォッチ等の通信機器の使用を禁止します。

- ・不正行為者には退場を命じ、全ての試験を無効とします。
- ・筆記試験の教室が午後の面接の控室になります。この教室で昼食をとってもかまいません。
- ・構内は全面禁煙です（喫煙場所はありません）。

4. 試験会場

帝塚山大学 学園前キャンパス（近鉄奈良線「学園前（帝塚山学園前）」駅下車、南出口より徒歩1分）

- ・駐車場はありませんので公共交通機関を利用してください。
- ・試験会場の下見はできません。

※東生駒キャンパスではありません。

③心理科学研究科心理科学専攻博士後期課程 学生募集要項

研究科・専攻・課程および募集人員

研究科・専攻・課程	修業年限	募集人員
心理科学研究科 心理科学専攻 博士後期課程	3年	3名

1. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 本大学院または他の大学院において心理学系の修士の学位を取得した者、または2023年3月に取得見込みの者。
- (2) 外国の大学において心理学系の博士前期課程（修士課程）と同等以上と認められる課程を修了した者または2023年3月に修了見込みの者。
- (3) 本大学院が心理学系の博士前期課程（修士課程）を修了した者と同等以上の学力があると認めた者。
※出願資格（3）の適用を受けようとする場合は、出願受付開始日の1ヶ月前までに教学支援課（心理学部）（問い合わせ先8頁参照）に問い合わせてください。

2. 出願手続

(1) 出願書類

出願者は、出願書類（4頁～6頁参照）をすべて取り揃え、綴じ込みの封筒で郵送してください。（締め切り日の消印有効）

書類不備の場合は、出願を受理しない場合がありますので、よく確認したうえで封入してください。

（送付先） 〒631-8585 奈良市学園南三丁目1-3
帝塚山大学 大学院入試係
TEL 0742-48-9122（総務課）

（問い合わせ先） 教学支援課（心理学部） TEL 0742-41-4720

(2) 入学検定料

35,000円

綴じ込みの「入学検定料振込依頼票（B）」で銀行振込みをしてください。

「願書（A）・入学検定料振込依頼票（B）・入学検定料領収書（C）」は、切り離さずに銀行窓口へ提出し、銀行収納印を3ヶ所〔(A)・(B)・(C)〕に押印してもらい、本学へ「願書（A）」のみを提出してください。〔「入学検定料領収書（C）」は各自で保管してください。〕

振込期間は、出願期間と同じです。但し、最終日の銀行窓口取扱時間に注意してください。

(3) その他

一旦出願された書類および納入された入学検定料は、返還いたしません。

3. 選考日程・選考方法

出願期間	2023年1月20日（金）～1月27日（金）締め切り日消印有効		
選考日程等	選考日	2023年2月8日（水）	
	合格発表日	2023年2月15日（水）	
	入学手続き期間	2023年2月15日（水）～3月1日（水） ※入学手続き期間内に学費等を納入し、 入学手続き書類を提出してください。	
選考方法	選考内容 （配点）	筆記試験	面接試験 （200点）
		英語 （100点）	
	選考時間	9：30～10：30 （60分）	11：00～ （約30分／1人）

〔受験の際の注意事項〕

(1) 筆記試験について

- ・英語の試験は、英和辞典のみの持ち込みを許可します（和英辞典や電子辞書は持ち込み不可）。

(2) 面接試験について

- ・提出された研究計画書および修士論文に基づいて、面接試験を実施します。
- ・時間は一人約30分です。受験生が多い場合はかなりの待ち時間が予想されます。予めご了解ください。
- ・前半の15分は、修士論文あるいはこれまでの研究について、研究成果や問題点を取り上げ、博士後期課程で取り組もうとする課題、研究の具体的な展望についてパソコン（パワーポイント）を使ってプレゼンテーションをしてもらいます。データをUSBメモリに保存してご持参ください。
（パソコン（Windows）は本学が用意します。Macを使用の受験生は、事前にご相談ください。）
- ・後半の15分は、後期課程での研究課題について、複数の面接担当者から口頭試問を実施します。
- ・各受験者の面接開始時刻等は当日に発表（掲示）します。
- ・論文抜刷り（投稿中の論文も含む）をお持ちの方は、試験当日に持参してください。

(3) その他

- ・試験を開始してから30分以上遅刻した者は、受験することができません。ただし、天候の異変・公共の交通機関の遅延その他不可抗力による遅刻の場合は、教学支援課（心理学部）または入試本部に申し出て指示を受けてください。
- ・試験時間中は、携帯電話及びスマートウォッチ等の通信機器の使用を禁止します。
- ・不正行為者には退場を命じ、全ての試験を無効とします。
- ・構内は全面禁煙です（喫煙場所はありません）。

4. 試験会場

帝塚山大学 学園前キャンパス（近鉄奈良線「学園前（帝塚山学園前）」駅下車、南出口より徒歩1分）

- ・駐車場はありませんので公共交通機関を利用してください。
- ・試験会場の下見はできません。

※東生駒キャンパスではありません。

OPEN CAMPUS

大学教員が個別相談に応じます。研究する内容や入試についてなど、質問にお答えします。

東生駒キャンパスの開催では、人文科学研究科日本伝統文化専攻希望者に帝塚山大学附属博物館を見学していただけます。(約7,850点にも及ぶ東アジアの古代瓦など貴重な文化財を収集し、広く一般公開しています。)

学園前キャンパスの開催では、心理科学研究科希望者に院生研究室、実習室や心のケアセンターを見学していただけます。

東生駒キャンパス

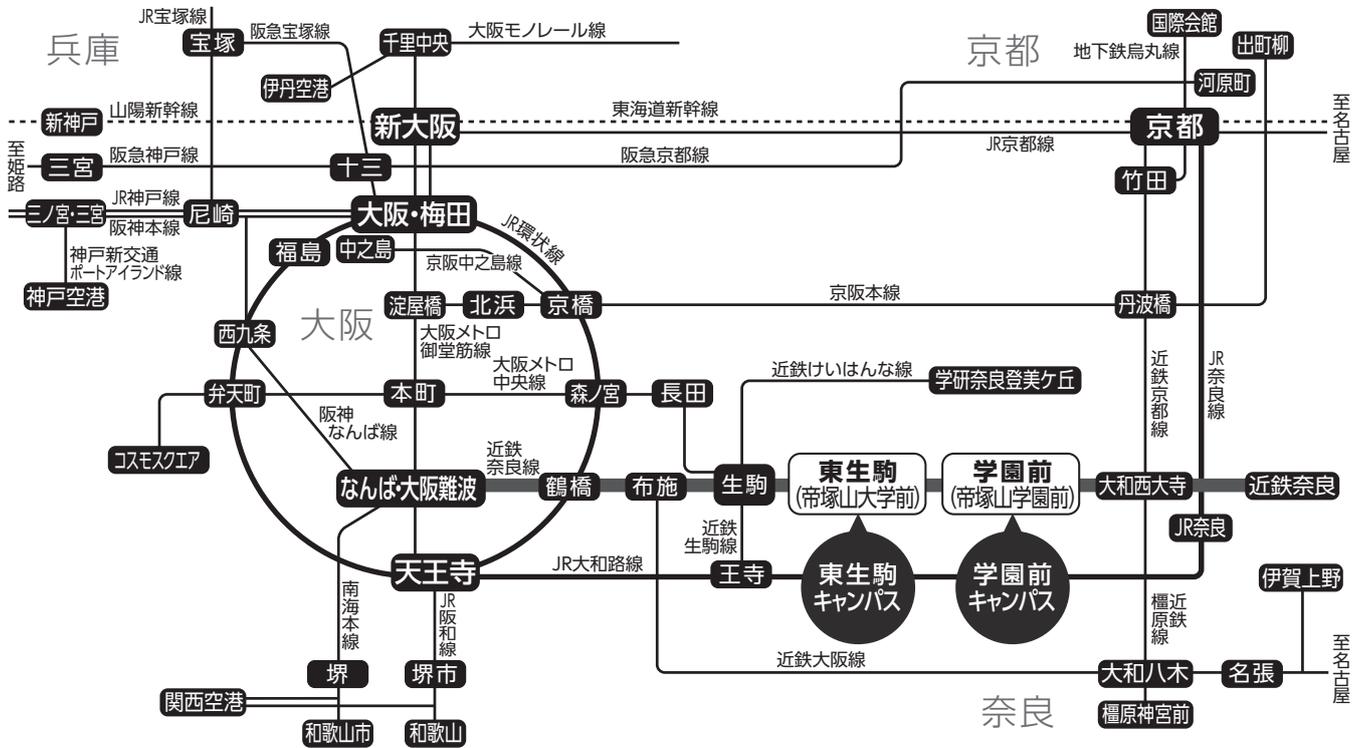
6月19日◎ 8月20日⊕ 8月21日◎
9月4日◎

学園前キャンパス

7月24日◎ 8月6日⊕ 8月7日◎

※事情により、内容が変更になる場合があります。最新の情報は、ホームページでご確認ください。

京阪神交通路線マップ



東生駒キャンパス

■近鉄奈良線「東生駒(帝塚山大学前)」駅下車、「帝塚山大学」行きバスで約5分。

〈主要駅からの所要時間〉

- なんばから約22分
近鉄奈良線快速急行利用、「生駒」駅で準急または普通に乗り換え
- 梅田から約31分
大阪メトロ御堂筋線「なんば」駅下車。
近鉄奈良線快速急行利用、「生駒」駅で準急または普通に乗り換え
- 奈良から約14分
近鉄奈良線準急または普通利用
- 京都から約46分
近鉄京都線急行利用、「大和西大寺」駅で近鉄奈良線準急または普通に乗り換え

学園前キャンパス

■近鉄奈良線「学園前(帝塚山学園前)」駅前、南出口より徒歩1分。

〈主要駅からの所要時間〉

- なんばから約25分
近鉄奈良線快速急行利用
- 梅田から約34分
大阪メトロ御堂筋線「なんば」駅下車。近鉄奈良線快速急行利用
- 奈良から約9分
近鉄奈良線快速急行利用
- 京都から約41分
近鉄京都線急行利用、「大和西大寺」駅で近鉄奈良線快速急行に乗り換え

帝塚山大学 大学院

<http://www.tezukayama-u.ac.jp>

問い合わせ先

- | | |
|----------------------|---|
| ■人文科学研究科
日本伝統文化専攻 | 〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1
TEL: 0742-48-8150 [教学支援課(文学部)] |
| ■心理科学研究科
心理科学専攻 | 〒631-8585 奈良市学園南三丁目1-3
TEL: 0742-41-4720 [教学支援課(心理学部)] |
| ■大学院入試係
(全研究科共通) | 〒631-8585 奈良市学園南三丁目1-3
TEL: 0742-48-9122 (総務課) |



学校法人帝塚山学園